



第 42 号  
編集・発行  
信州大学附属図書館  
繊維学部分館  
平成14年1月24日

---

CONTENTS

---

図書館と私	応用生物科学科	花田 章	(2)
図書館への期待	感性工学科	岡本 三宜	(4)
分館通信 告知板			(6)
分館日誌			(8)
編集後記			(8)

---

Library(電子版)はインターネットでも提供しています。  
URLは <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/online.html> です。

## 図書館と私

応用生物科学科

花田 章

昭和12年生まれの私にとって、戦前・戦後の青少年時代を通して、本は高価なものであり、友人または貸本屋から借りて読むのが当たり前であった。子供の頃からの本好きで、今でも読書中毒気味であることに変わりはなく、週末には本屋に出かけて面白い本を探すのを習慣としている。高校の図書館には比較的立派な蔵書があり、英語の勉強を兼ねてあえて原語の本に挑戦したことが思い出となっている。大学に入って1年のころはいわゆる教養科目を履修したが、比較的自分の時間に余裕があり、大学附属図書館から分厚い文学全集を借りて読み漁った記憶がある。“木曾路はすべて山の中である”の文章から始まる島崎藤村の「夜明け前」はその当時に読んだ記憶として鮮明に残っている。千曲川の流れる上田市の本学部にお世話になったが、信州との接点は大学生時代に夢見た千曲川旅情の歌に始まっている。当時の学生はほとんどが懐の寂しい時代であったが、読書欲は図書館で満たされた。そのことは狭い専門領域の学問にとらわれない物の考え方を育てるのに有益であった。私の場合、乱読とは必ずしもいえず、むしろ気に入った作家の著作にのめりこんでしまうきらいがある。2年次以降の専門科目のカリキュラムはびっしりで、その要点をまとめるのにかなり忙しかったが、大学の講義で不足する部分は図書館を活用したり、古書の安い専門書を手に入れて独学で補強した。

国立研究機関に奉職して専門の英文研究雑誌を読む必要が出てきたが、新人はまず個別の論文ではなく専門書を読んで勉強すべきであるとの助言を頂いた。確かにそのとおりで、木を見て森を見ずでは研究のアイデアも小さなものに限定されてしまう。論文マニアとでも称せる研究者をみかけたが、その結果は単なる物知りに落ち込んでしまう危険性があり、真の創造性ある研究者には育たない危険性を生む。自分が何をやるべきかが判らなくなってしまうからであろう。そのような研究員は概して受験秀才・偏差値の高い優等生であることが多い。今日、高度情報化時代を迎えて膨大な情報が流れている。その情報に振り回されないためにはインターネットに余り時間を費やすべきではないと考える。研究の切り口を考える場合、専門分野以外の基礎研究領域の研究論文から触発されることが多い。つまり境界領域の論文が引き金となって新しいアイデアが生まれるということは確かのようなのである。

本学部にお世話になってまず図書館の蔵書と研究雑誌の整備状況を見学したが、私の関係する専門雑誌は極めて少なく、この点では絶望的であると感じた。そのため必要とする論文は旧職場の図書館から手に入れるという方法をとった。それ以外の活用法として、講義資料の準備に図書館の蔵書が役に立った。いうまでもなく新しい講義を担当する場合、適切なテキストとなる教材を探すことが必要であるが、学生の懐具合も考慮しなければならない。安価であれば内容に乏しく、それを補強する資料を手作りで準備しなければならない。この場合に先人が購入しておいてくれた蔵書が大いに参考になった。スライドやOHPは画像情報として有益であるが、それらは流されていく情報であり下手をすると学生の脳裏から消え去っていく性質のものといえる。手元に残る資料は反復して利用できる利点を持っている。これは手書きの手紙が暖かいぬくもりを残すのに対し、電子メールが事務的な情報交換にとどまるのに似ている。講義のやりかたにも原因するかもしれないが、一般的に学生の予習・復習の習慣が身につけていない。そのため意図してレポート課題を出して調査と文をまとめる訓練を課すということを試みた。レポートは学生に戻して本人があとでそれを読んだときに思い出す資料となるからである。学生は調査のために図書館を訪れる必要があり、結果として他の蔵書にも好奇心が生まれる場合もあるだろう。

私にとって図書館とは人類の知的活動の宝庫であり、学生と教職員、ひいては市民、の共有財産であり、無料でそれを閲覧できる知識の海であると思う。学生諸君にとって取りあえずは好奇心のある本を探すことから始めたらよい。それも易きに流れず、一段ハイレベルの本に挑戦すると読後感が充実してくる。週刊誌や月刊誌、新聞も揃っている。そのうちに専門の参考書や論文を探しに図書館に通う必要もでてくる。また、その静謐な環境は精神を集中させ時には安らぎを与えてくれる。残念なことに図書館の予算は年々削減せざるを得ない状況が大学のみでなく公的研究機関においても進行している。大学は学問の府であり、まず学生の知的好奇心を満たすために多種多様な書籍をできるだけそろえておかねばならない。そのための予算の確保とその合理的運用については図書委員会の先生方の知恵に期待します。

## 図書館への期待

感性工学科 岡本 三宜

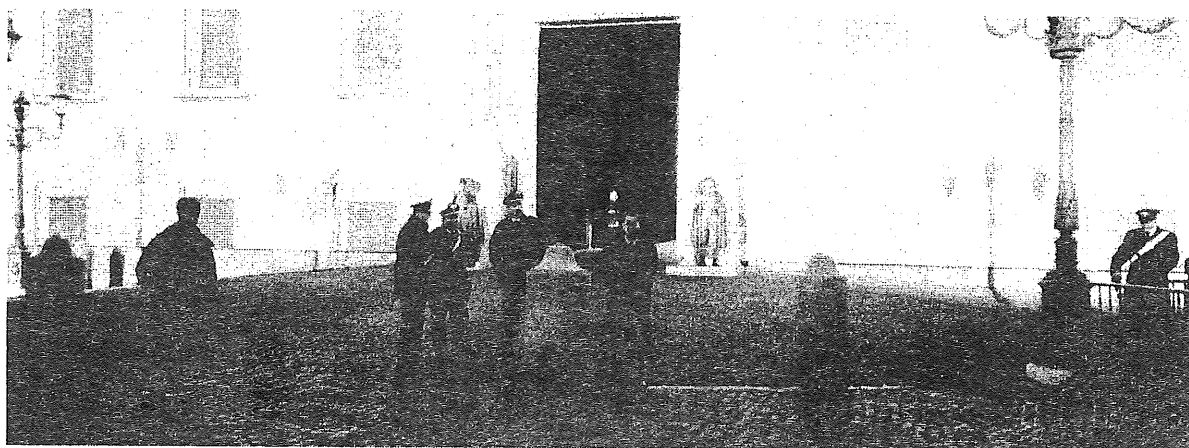
思いかけず、昨年イタリア国からレオナルド賞を拝受した。理由は世界で初めて超極細繊維、特にそれを生じたスエード調新素材の新パラダイムを開いたこと、アルカンターラと言う製品でイタリアの知名度を上げたからと言う。レオナルド・ダ・ヴィンチは小学生時代から学んだ大人物ではあるが、訊かれた時に曖昧では申し訳ない。何時もの癖で、早速、図書館に調べに行った。驚くべき事に、どう少なく見積もっても、数万円以上はすると思われる（今なら数十万円？）立派なレオナルドに関する本が、図書館の角の方に備わっていた。このような大作は稀にしかない。彼に関する事は、全てを網羅したとも思える本である。訳本であるが、カラー印刷である。持つのも重い程の大作である。機会を見つけてご覧ください。<sup>※注(1)</sup>このような本をこの図書館に選んで備えた人物の大きさが忍ばれる。古新聞も良く整理されていて、探せる様になっていて、便利である。付属のリソグラフも大変便利であり、枚数の多い時は、威力を発揮する。

ところで、私のようにすぐに忘れてしまう癖のある者は、すぐに確認に行く。ところが、靴を脱がなければならない。スリッパの汚さと合わせて、これには苦労した。アメリカの大学の図書館を見たことがあるが、靴を履いたままであるが、ピカピカの、実に綺麗な図書館であった。これが、実施<sup>※注(2)</sup>される。便利になることは、間違いない。ところで雪国では、汚れ対策としてどのようにしているのでしょうか。ドイツでの経験だが、長い棒状の亀の子タワシのようなブラシが、何列にもなって、玄関に、マット状に設置され、人が通ると感知して、自動回転し洗い流される。これでは、如何に靴裏が汚れていようと、一発で清浄になった。雪国対策の一つであろう。

図書盗難防止・登録忘れの対策は、必要である。図書に埋め込まれた薄いシート製だが、登録せずに、玄関を通過すると、警報する。私は大勢の学生がいる授業では、近づけるだけで感知する電波のカードで自動出席管理を松本の講義で試行中だが、大勢の時は実に便利である。エクセル形式で、名前の横に、一覧表で、毎回入退出が記録されており、総出席回数やその日の出席人数が自動的に表示記録される。（やろうと思えば、顔も出せる機能も付いている）電子技術は驚くべき進歩をして

いる。更なる期待としては、ここの図書に限らず、日本の図書の大サイズへの統一とカラー化が更に進むことを期待したい。図書のカラー化は高価なので、国の援助があっている。最近中国の図書が、信じられない程進歩して、綺麗なアメリカ版型になったと学会関係者から聞いた。

10年後には、ITセンター、成果展示館・情報交流空間を兼ねて20階程度の、総合図書館に、生まれ代わっている事を期待している。



イタリア大統領官邸に招待され、入る直前 “レオナルド賞受賞に際して” (2001.12.13)

\* 先生からお預かりした写真を綺麗に掲載することができませんでした。オンライン版『Library』でイタリアの雰囲気をお楽しみください。(編者)

---

\* 編注(1) : 『知られざるレオナルド : The Unknown Leonardo』

ラディスラオ・レティ編、岩波書店、1975

開架室1階「大型本コーナー」にあります。

\* 編注(2) : 2002年1月21日より、土足のまま入館できるようになりました。

# 告知板

ここでは図書館からの最新の情報をお知らせしています。

次号 Library 発行までのお知らせは、Library 号外として構内の掲示板  
や繊維学部分館ホームページ (<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/>)  
でご案内していますので、そちらをご覧ください。

## ⇒ 春季休業中の特別貸出について

春季休業に伴い、下記の通り貸出期間を延長します。

貸出開始日	大 学 院 生	平成14年1月10日(木)	10冊以内
	学 部 4 年 生		8冊以内
	学 部 2・3 年 生	平成14年1月26日(土)	5冊以内
	研 究 生・聴 講 生		3冊以内
返却期限日	平成14年4月9日(火)		

※ 返却期限日は厳守してください。

※ ただし、卒業生は2月28日(木)までの貸出・返却となります。

## ⇒ 卒業生の皆様へ

この春卒業予定の学部4年生・M2年生・D3年生に対する図書の貸出・返却期限は 2月28日(木) までです。必ず期限日までに返却してください。

なお、進学し4月以降も繊維学部<sup>に</sup>在籍される方は、図書を借りる時に係員にお申し出下さい。返却期限日を4月9日(火)とします。

今までに借りた図書で返却していない図書がある場合には、図書館入口のブックポストに投函してください。

⇒ 夜間・土曜開館の休止について

2月9日(土)～4月8日(月)の春季休業中は、開館時間が短縮されます。

休業中	8:30a.m.～5:00p.m.
-----	-------------------

※ 業務は通常通り行います。

※ 土曜日は休館ですのでご注意ください。

⇒ 図書館は土足O.K.になりました!

1月21日(月)より、図書館へは土足のまま入館できるようになりました。これまでのように、スリッパに履き替える必要はありません。入りやすくなりましたので、どうぞご利用ください。

ただし、館内はカーペット敷きです。雪や泥はよく落としてから入館くださいますようお願いいたします。

## 分館日誌 分館日誌

(10月～12月)

- |          |                              |                   |
|----------|------------------------------|-------------------|
| 10/22    | 第3回 信州大学学術情報・図書委員会<br>(SUNS) | 出席者－平井分館長<br>松瀬委員 |
| 10/23-25 | 信州大学会計事務総合基礎研修<br>(松本、あづみ荘)  | 出席者－渡辺            |
| 10/25    | 第5回 図書委員会                    |                   |
| 10/26-27 | 関東甲信越静地区著作権セミナー<br>(山梨県甲府市)  | 出席者－滝口            |
| 11/5-6   | 北信越地区国立大学図書館研修会<br>(福井医科大学)  | 出席者－武田            |
| 11/22    | 第2回 信州大学学術情報・図書委員会専門部会       | 出席者－太田委員          |
| 12/18    | 第4回 信州大学学術情報・図書委員会<br>(SUNS) | 出席者－平井分館長<br>太田委員 |
| 12/27    | 第6回 図書委員会                    |                   |

### 編集後記

2002年、最初の『Library』をお届けいたします。皆様にはよい年明けとなりましたでしょうか。昨年は大きな事件が続きましたが、今年は明るい話題の多い年になって欲しいものです。

今号は、今年度いっばいで退官される花田先生、岡本先生のお2人の先生方に原稿をお寄せいただきました。図書館にとって耳の痛いお話もありますが、先生方の仰るような理想の図書館になるべく、努力を重ねていきたいと思えます。退官に向けてご多忙の中、快くご寄稿くださりましてありがとうございました。

次号は4月の発行を予定しています。利用者の皆さんの声も『Library』に掲載したいと思えますので、ご意見・書評など何でもお寄せ下さい。係員に直接、またはE-mailでの寄稿もお待ちしています。

E-mail アドレスは、[jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp](mailto:jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp) です。